

## 2009年3月期 第3四半期決算 電話説明会 説明概要

「2009年3月期 第3四半期決算 補足資料」をもとに説明致しましたので併せてご覧ください。  
お手元にない場合は、お手数ですが当社 IR サイトよりダウンロードをお願いいたします。  
<http://www.olc.co.jp/ir>

- ・実施日 2009年2月5日（木）
- ・説明者 執行役員 経理部長 横田 明宜

### 1. 四半期連結損益計算書（第3四半期累計実績／前年同期）

#### 【連結業績】

2009年3月期 第3四半期決算の連結損益計算書を簡単に確認させていただきます。お手元の補足資料1ページ左側、1番の損益計算書をご覧ください。

当第3四半期累計期間は、前年同期と比較して、

- ・売上高は、12.6%増の3,004億円、
- ・営業利益は、13.4%増の422億円、
- ・経常利益は、20.5%増の417億円、
- ・四半期純利益は、15.4%増の238億円と、

二桁の増収増益となり、いずれも過去最高となりました。

#### 【セグメント別 売上高】

セグメント別の売上高とその増減要因について説明いたします。資料右側「(1) 売上高の状況」をご覧ください。

#### ① テーマパーク事業

売上高は、前年同期比221億円増の2,360億円となりました。売上高の内訳につきましては、アトラクション・ショー収入、商品販売収入、飲食販売収入、その他の収入、すべての項目で前年同期を上回りました。

入園者数及びゲスト1人当たり売上高の前年同期差異については、「(2) テーマパーク関連情報」をご覧ください。入園者数は、4月15日にスタートした東京ディズニーリゾート25thアニバーサリーが好調であったことにより、前年同期を上回り、過去最高となりました。

また、ゲスト1人当たり売上高も前年同期を上回りました。その内訳を説明いたしますと、チケット収入は、前年同期とほぼ同様となりました。商品販売収入は、東京ディズニーリゾート25周年商品に加え、クリスマス商品や東京ディズニーシー限定で販売しているディズニーベア「ダッフィー」商品などの販売が好調であったことから、前年同期を上回りました。飲食販売収入は、ポップコーンやスモークターキーレッグと言ったワンハンドメニューが好調であったことなどにより前年同期を上回りました。

なお、入園者数及びゲスト1人当たり売上高の前年同期差異は、ともに上半期同様の増加率となりました。

## ② ホテル事業

売上高は、前年同期比 93 億円増の 350 億円となりました。

各ホテルの客室稼働率の前年同期差異については、「(3) ホテル客室稼働率」をご覧ください。

- ・東京ディズニーランドホテルは、昨年 7 月にオープンし、計画通り好調に推移しました。
- ・東京ディズニーシー・ホテルミラコスタ、及び、ディズニーアンバサダーホテルの客室稼働率は、前年同期とほぼ同様となりました。
- ・パーム&ファウンテンテラスホテルの客室稼働率は、前年同期を上回りました。

これらの結果、前年同期に比べ、すべてのホテルで増収となりました。

## ③ リテイル事業

景気悪化という環境の中、客数が減少したことなどから、売上高は前年同期比 7 億円減の 119 億円となりました。

「(4) ディズニーストア関連情報」をご覧ください。

ディズニーストアの既存店売上高は、客数が減少したことなどから、前年同期を下回りました。出退店状況ですが、当第 3 四半期には越谷イオンレイクタウン店など、新規オープンのショッピングモールを中心とした出店のほか、アウトレット店としては初の常設店舗となる佐野プレミアム・アウトレット店を出店し、当第 3 四半期末の店舗数は 60 店舗となりました。

## ④ その他の事業

売上高は前年同期比 29 億円増の 174 億円となりました。

これは、シルク・ドゥ・ソレイユ シアター東京が昨年 10 月にオープンし、シアトリカル事業の売上高が増加したためです。

## 【セグメント別 営業利益】

セグメント別の営業利益とその増減要因について説明いたします。資料右側中段をご覧ください。

## ⑤ テーマパーク事業

営業利益は、52 億円増の 369 億円となりました。

主な増減要因といたしましては、売上高が増加した一方、昨年 3 月に実施した準社員時給改定などに伴う人件費が 37 億円、東京ディズニーリゾート 25 周年に伴う販促活動費などの固定経費が 18 億円増加しました。なお、固定経費は、通期では、前期に比べ減少する見込みです。

## ⑥ ホテル事業

売上高が増加した一方、東京ディズニーランドホテルの開業前準備費用が 25 億円増加したことなどから、営業利益は 3 億円減の 55 億円となりました。なお、開業前準備費用を除くと、東京ディズニーランドホテルは黒字となっております。

## ⑦ リテイル事業

売上高は減少したものの、商品原価率が改善したことなどから、営業利益は 1 億円増の 3 千万円となりました。

## ⑧ その他の事業

シルク・ドゥ・ソレイユ シアター東京の開業前準備費用が 5 億円増加したことなどから、3 億円の営業損失となりました。

### 【経常利益】

営業外費用の減要因について説明いたします。

昨年4月に実施した1,000億円の社債償還に伴う支払利息の減少などにより、営業外費用は16億円減少いたしました。

この結果、経常利益は、前年同期比71億円増の417億円となりました。

### 【四半期純利益】

特別損失の増要因について説明いたします。

本日発表いたしました通り、当社100%子会社で知的財産権ビジネスを行っている、株式会社OLC・ライツ・エンタテインメントを、今年度中に売却もしくは解散することなどにより、事業撤退に伴う事業整理損失引当金繰入額7億円を計上いたしました。

当社では、中期経営計画において事業基盤の強化を掲げており、現在、全グループ会社を対象に既存事業の見直しを行っています。今回、この方針に基づき、赤字となっていた知的財産権ビジネスから撤退し、事業の選択と集中を進めることにいたしました。

以上の結果、四半期純利益は、前年同期比31億円増の238億円となりました。

最後に、※印の部分ですが、2009年3月期よりホテル事業の費用計上区分を変更し、これまで売上原価に計上していた費用の多くを、今期より販管費として計上しております。費用計上区分変更前の連結実績値は、補足資料に記載の通りです。

### 【総括】

総括をさせていただきます。資料右側の下段をご覧ください。

#### 対前年同期

- ・当第3四半期累計期間（4～12月）は、景気が悪化する中、東京ディズニーリゾート25周年効果などにより過去最高の入園者数になったことや、東京ディズニーランドホテル、シルク・ドゥ・ソレイユシアター東京がオープンしたことなどに伴い、売上高は過去最高となりました。
- ・また、テーマパーク事業が好調であったことなどから、営業利益、経常利益、四半期純利益いずれも過去最高となりました。
- ・なお、資料左側下段にある【参考】四半期別 前年同期比の推移のグラフのとおり、当第3四半期（10～12月）の連結業績は、売上高、営業利益ともに第1四半期、第2四半期の増加率を上回りました。

#### 対11月発表予想

- ・東京ディズニーリゾート25周年効果などにより、テーマパークの入園者数及びゲスト1人当たり売上高が増加し増収となりました。
- ・売上高の増加や、第4四半期への費用の時期ずれ約5億円などにより、11月発表予想に対し、約80億円の大幅な営業増益となりました。

## 2. 通期業績予想 連結損益計算書（2009年2月発表修正予想／11月発表予想）

今回上方修正を行う 2009 年 3 月期の通期業績予想について説明いたします。お手元の補足資料 2 ページ左側、2 番の損益計算書をご覧ください。

2 月発表予想を、昨年 11 月に発表いたしました業績予想と比較して、

- ・売上高は、2.7%増の 3,852 億円、
- ・営業利益は、17.8%増の 372 億円、
- ・経常利益は、20.2%増の 359 億円、
- ・当期純利益は、19.1%増の 208 億円

を見込んでおり、今期 3 度目の上方修正を行います。

### **【セグメント別 売上高】**

セグメント別の売上高とその増減要因について説明いたします。資料右側をご覧ください。

#### **① テーマパーク事業**

東京ディズニーリゾート 25 周年効果などにより、入園者数及びゲスト 1 人当たり売上高が通期でも増加するため、売上高は 102 億円増の 2,988 億円となる見込みです。

#### **② ホテル事業**

全てのホテルで増収となるため、売上高は 7 億円増の 462 億円となる見込みです。

#### **③ リテイル事業**

景気悪化による客数の減により、売上高は 7 億円減の 157 億円となる見込みです。

#### **④ その他の事業**

11 月予想とほぼ同様の 244 億円となる見込みです。

なお、「テーマパーク関連情報」に記載の通り、入園者数は、東京ディズニーリゾート 25 周年効果などにより、過去最高となる 2,710 万人を見込んでいます。

### **【セグメント別 営業利益】**

セグメント別の営業利益とその増減要因について説明いたします。資料右側中段をご覧ください。

#### **⑤ テーマパーク事業**

人件費が約 15 億円増加するものの、売上高の増加に伴い、営業利益は 48 億円増の 325 億円となる見込みです。

#### **⑥ ホテル事業**

売上高の増加に伴い、営業利益は 6 億円増の 58 億円となる見込みです。

#### **⑦ リテイル事業**

売上高の減少に伴い、1 億円の営業損失となる見込みです。なお、今回売上高を下方修正したのは、世界的な景気悪化の影響を受け、1～3 月のディズニーストアの売上高を特に厳しく見ているためです。

#### **⑧ その他の事業**

シアトリカル事業の営業損失が縮小することなどから、10 億円の営業損失となる見込みです。

### 3. 通期業績予想 連結損益計算書（2009年2月発表修正予想／前期実績）

お手元の補足資料2 ページ左側、3 番の損益計算書をご覧ください。

2 月発表予想を前期実績と比較して、売上高は 12.5%増、営業利益は 19.4%増、経常利益は 30.6%増、当期純利益は 41.3%増と、通期でも二桁の増収増益となる見込みです。

なお、資料右側 3 番の「テーマパーク関連情報」に記載の通り、入園者数は前期比 6.6%増、ゲスト 1 人当たり売上高は 2.9%増を見込んでおります。主な増減要因につきましては、第 3 四半期累計実績の増減要因とほぼ同様となっております。

#### **【総括】**

総括をさせていただきます。資料右側の下段をご覧ください。

#### **対 11 月発表予想**

- ・売上高、営業利益、経常利益、当期純利益、いずれも 11 月発表予想から上方修正いたします。
- ・これは、東京ディズニーリゾート 25 周年効果などによりテーマパークの入園者数及びゲスト 1 人当たり売上高が増加する見込みのためです。
- ・なお、第 4 四半期については、人件費が約 15 億円増加することなどから、11 月発表予想に対し、約 25 億円の減益修正を行っております。

#### **対前期**

- ・東京ディズニーリゾート 25 周年効果や東京ディズニーランドホテル、シルク・ドゥ・ソレイユシアター東京のオープンに伴い増収となる見込みです。
- ・また、2 つの新規施設の開業前準備費用が 37 億円発生するなど、今期特有のコスト負担があったものの、売上高の増加などにより増益となる見込みです。

以上